

# 組織目標評価報告書（平成26年度）

部局名： **教育開発センター**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b> <b>①-1 目標</b> 該当なし(センター業務に記載)	自己評価
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>②研究領域</b> <b>②-1 目標</b> ・教育に関する各種アンケート等を本年度も継続して実施し、現状の把握に努めるとともに、アンケート結果を分析し、本学が直面する教育の課題や改善すべき事項を明らかにする。	自己評価
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> アンケート実施状況 ・教養教育を含む学士課程教育に関する各種アンケート並びに大学院課程教育に関する各種アンケート	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b> <b>③-1 目標</b> 該当なし(センター業務に記載)	自己評価
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	
<b>④センター業務</b> <b>④-1 目標</b> 【教育方法の改善】 <教養教育について> ・教養教育の質向上 ・新規教養教育カリキュラム実施に向け、教養教育の有効な授業科目の選定並びに担当教員の適切な配置を行う。 ・教養教育におけるリメディアル教育、初年次教育に有用な科目の選定を定期的に行うための体制を構築する。 <学士課程教育について> ・学士課程教育構築システム(Q-cumシステム)を用いて、教育内容やカリキュラムの検証ならびに授業、カリキュラムの改善を行う。 ・入学生及び卒業生アンケートの実施と終年分析を通して学士教育の改善を行う。 <大学院課程教育について> ・各研究科におけるコースワーク主体のカリキュラムの実施・検証を行うとともに、実施例を増加させるための方策を検討する。 <教育全般について> ・単位の実質化を実現するため、時間外学習の成績評価への反映について検討する。 ・アセスメントポリシーの全学への導入を企画する。 【教員の質向上】 ・教員自身の教育実践のあり方を主体的に見直す場としてFDを機能させ、活性化を図る。また、事務職員の質向上のため開始したSD研修会を継続、浸透させる。 ・学生による授業評価アンケートの教育改善や教員活動評価への効果を検討する。 ・平成25年度に試行的に行った学生発案によるベスト・レクチャー選考を、全学のベスト・レクチャー認定制度として導入することを検討する。 ・平成25年度に開始した、教員自身の授業風景をビデオ撮影し、そのビデオを用いて教員が自己の授業評価を行う実施例の拡大を図る。 【学修支援】 ・e-Learningの全学的な普及・利用促進に努め、学生の授業時間外学習の支援を図る。 ・学生指導のあり方と学生へのきめ細かい指導を迅速に実践するための学生指導システムについて検討を行う。 ・ラーニング・コモンズ等の学習スペースに関する効果的な利用方法についてICTの観点から検討する。 ・学部授業科目(教養教育科目、専門教育科目)及び大学院授業科目において、本学の教育事情に最適化した内容、レベルであって、学生が購入しやすい低廉な価格の岡山大学版教科書の編纂を、引き続き支援するとともに、授業内容の標準化のため、共通教科書の作成に努める。また、岡山大学版教科書の選定にあたっては、学生目線に立った望ましい条件を検討する。 【教育環境整備】 ・TAの研修方法を改善し、研修を受けるTAの増加を図る。 ・補習教育における高校退職教員の講師配置の教育効果を検証する。 ・各研究科における複数指導教員制の整備と領域間連携教育を推進を進める。 ・学部大学院連携教育の運用の見直しを検討し制度改善を進める。 【地域連携・リカレント教育】	自己評価
【教育方法の改善】 <教養教育について> ・教養教育改革の基本方針を策定するとともに、平成28年度実施の60分授業、クォーター制に即した教養教育の授業時間割案を作成した。 ・60分授業、クォーター制の導入に伴う教養教育改革に対応した高大接続教育への移行策、リメディアル教育、初年次教育に有用な科目の定期的な選定を行う組織として、従来の学科目部会に代わる学系部会の中に高大接続部会を設置し、選定作業を開始した。 ・平成25年度に実施した補習教育の受講状況の検証に基づいて、平成26年度前期に、初等数学、初等物理学、初等化学(各2コマ)及び初等生物学(3コマ)の4科目について教養教育科目の個別科目として、未履修者を対象に補習教育を開講した。 ・各学部学科単位で策定されている、教養教育における学習内容の順次性や科目内容の関連性を同時に図示したサブカリキュラムマップを、60分授業、クォーター制の導入に伴う教養教育改革に対応したものに改訂することを目的として、1月に検討及び評価を行い、その結果を2月に報告するとともに、不備のある学部学科に対して改善を求めた。 <学士課程教育について> ・Q-cumシステムを使って、平成26年度までの各DP項目の科目分布表を作成すると共に、本データを各学部へ提供し、DPと授業科目との関連性及び各DP項目において提供される授業科目の過不足について検証を開始した。また、教養教育における学生のDPポイントの獲得度や各DPIに関連する教養教育科目数を調べるとともに、DP要素に照らして適切な教養教育科目を開講するよう努めた。さらに、科目とDP要素との関連割合の見直しを担当教員に依頼した。 ・定量的な学修到達目標設定の一環として、平成26年度までのQ-cumシステム内に蓄積したデータを活用して、各学部・学科別及び学年別に学生が取得した累積DPポイントの平均値を算出し、①「同級生の平均値」、②「各局における卒業時の先輩の平均値」をレーダーチャート上に、③「各DP項目における取得DPポイントの最大値」をレーダーチャート下部の表に載せることとした。 ・1月に、Q-cumシステムを利用して各学部学科の学年毎のDPポイント平均値を示し、これを基準とした学習到達度評価の実施と学修指導方法に活用するための検討を各学部等に依頼し、その検討結果を3月に報告書としてまとめた。 ・平成25年度に実施した入学生及び卒業生アンケートの集計・分析を前期までに行い、それによって明らかになった学部教育の問題点の改善を各局に依頼するとともに、その対応の妥当性について検討した。 ・補習教育実施部会との共同作業である補習教育等の点検については年度の中間時点までに検討を終えた。また、学生の学部間移動等の柔軟な教育体制について、転学に関する学部及び研究科の規程の検証を行い、転学手続きをスムーズに進めるための方策を教育開発センターに答申した。 <大学院課程教育について> ・9月に実施した「桃太郎フォーラム」の分科会で、教育開発センターが実施した大学院教育に関するアンケートの結果及び各研究科の大学院教育充実のための取組結果の報告を基に、各研究科でのコースワークの実施状況と有効性、コースワークを増加させるための各研究科の課題について討議し、その検討結果を盛り込んだ報告書を2月にまとめた。 ・全研究科におけるコースワークの設定が終了し、全研究科においてコースワーク主体のカリキュラムがスタートしたことに伴い、検証作業を開始した。 <教育全般について> ・学部と連携し、平成28年度からの60分授業、クォーター制に対応した新規教育カリキュラム及び新学事層を作成した。 ・授業時間外学習、学習の動機付けに関する各学部の取組みについて、9月に実施した「桃太郎フォーラム」の分科会で実践事例や実施のための支援環境に関する議論を行い、その結果及び参加者からの意見、講演者からのフィードバック内容を報告書にまとめ公開した。	

・「大学コンソーシアム岡山」及び「科学Tryアングル岡山」における事業活動を通して、大学間連携を引き続き推進する。  
・公開講座「岡山大学先端研究講座」の実施を推進するとともに、社会人リカレント教育の更なる推進について検討する。

・シラバスへの授業時間外学習の明記については、各部署のシラバス記入状況を調査するとともに、成績評価への反映に関するアンケートを12月に実施した。これらの結果を基に、専門教育科目のシラバスへの授業時間外学習の明記に向けた検討内容を2月に報告書としてまとめた。また、単位の実質化を進めるため、平成28年度からの60分授業制導入に向けて、問題点の洗い出しと課題の克服に努めた。  
・グローバル化対応に関する企画・支援として、平成27年度開講科目に係る英語版シラバスの作成に資するために、シラバスで頻繁に使用される文言を中心とした「用語・用例集」を作成し、HP(学内限定)にアップした。なお、英語版シラバスは、全科目において作成された。  
・カリキュラムの改善として、ナンバリングの導入(平成26年11月教育研究評議会承認)、平成27年度の教養教育科目の中からディプロマ科目の認定を行った。  
・9月に実施した「桃太郎フォーラム」の分科会で、学士課程教育構築システム(Q-cumシステム)、ルーブリックやアセスメント・テストを活用した学習達成度の評価基準の作成及び学士力達成状況の検証と修学指導等についての有効性と問題点を議論した。

#### 【教員の資質向上】

・4月及び10月の2回、「新任・転入教員FD研修」を開催し、教育方法の工夫などFD全般、ICT活用、メンタルヘルス問題への対応などに関する研修を行い、職務に必要な事柄についての周知及び理解を図った。  
・9月の「桃太郎フォーラム」において、特別講演の他、双方向性のワークショップやSDをテーマとするプログラムを含む6つの分科会を企画・実施し、FD・SDの活性化を図った。加えて、その成果を報告書にまとめ、全学で情報を共有した。  
・11月に関係部署と連携し、学外講師を招いてSD研修会(事務職員ら28名が参加)を実施し、好評を得た。また、研修参加者へ今後のSD研修の方向性に関するアンケートを行い、その結果を基に、平成27年度以降の上級研修実施に向けた検討を開始した。  
・ベスト・レクチャー認定制度について検討を行い、これまでの制度設定原案を基に、優れた教育を行っている授業とともに、本学の教育改革を先導する先進的な授業を顕彰することを目的とした修正を加え、「ティーチング・アワード表彰制度」と名称を改めて、全学対象に導入することとした。さらに、それに伴う「岡山大学ティーチング・アワード表彰に関する内規」及び「岡山大学ティーチング・アワード表彰の実施・選考について(申合せ)」を作成するとともに、同表彰を円滑に実施するための運営体制を整備した。  
・平成25年度に続き、教養教育担当教員にビデオを用いた自己評価を依頼し、本方法による自己評価の実施拡大を図った。

### ④-2 目標とする(重要視する)客観的指標

・学士課程教育構築システム(Q-cum system)の稼働状況と各DP項目の科目分布表並びに、各学部・学科別及び学年別に学生が取得した累積DPポイントの平均値  
・各種教職員研修会の実施状況と参加率  
・教養教育TA研修会の実施状況と参加率  
・e-Learning利用状況  
・岡山大学版教科書出版件数  
・教養教育カリキュラム実施状況  
・大学間連携授業科目の履修者数、単位取得状況  
・全学公開講座実施状況と参加者数  
・平成28年度からの60分授業、クォーター制に対応した新規教育カリキュラム及び新学事層  
・教養教育改革の基本方針  
・平成28年度実施の60分授業、クォーター制に対応した教養教育の授業時間割原案  
・英語版シラバスの作成に資するため作成した「用語・用例集」及び英語シラバス共通フォーマット、並びに英語版シラバス例  
・ナンバリングの導入例  
・「岡山大学ティーチング・アワード表彰に関する内規」及び「岡山大学ティーチング・アワード表彰の実施・選考について(申合せ)」

#### 【学修支援】

・学習ポートフォリオシステム等の国内外の事例及び学内でのITを活用したポートフォリオ学習等の事例について調査を実施した。また、9月の「桃太郎フォーラム」の分科会で学内のティーチング・テクノロジー活用事例について議論した。これらの内容を基に、学生の視点に立った課題を2月に報告書としてまとめ、提言するとともに全学で共有した。  
・WebClassの利用講習会を2回実施した。Webclassのコース数も平成25年度517コースから平成26年度611コースへと増加した。  
・Webclassの学修管理ポートフォリオを試行し、10月に設置したe-Learning活用WGによりティーチング・テクノロジーの活用、調査と併せて報告した。また、10月設置の学修指導システムWGで、学内外のIT活用学生指導環境の調査、整理を行い、システムの導入方法、時期等に関して継続的に検討を進めた。  
・ラーニング・ commonsの在り方を検討する中央図書館利用者サービス実施検討WGに教育開発センター委員会の委員2名が参画し、ラーニング・commonsにおけるICTの利活用について提案を行った。  
・教養教育、学部専門教育及び大学院教育の授業科目を対象に、岡山大学版教科書の編纂支援の公募を2回(4月、9月)行った。4月の公募においては3件の応募中2件を採択し、9月の公募においても、1件の応募中1件を採択した。また、平成25年度に採択し、平成26年度9月に出版予定だった教科書について、執筆者から学生の理解度を高めるために改定作業を行いたい旨の申し出があり、それに対して改定費を認め、平成26年度編纂支援を行った大学院教育向けの教科書は2冊(学部教育向けの内容も含む)であった。教科書編纂の問題点、課題解決に向けて検討を行い、平成27年度以降、従来の編纂支援事業だけではなく、図版等を業者に依頼し、より丁寧な製本化を心掛けたものや、より簡易製本化を進めたものを作成するなど、幅広い編纂支援を行っていくこと、教科書を使用した学生に対して行うアンケートの結果を著者にフィードバックすること、学生に対して教科書化を希望する授業科目をアンケート調査し、それを基に、授業担当教員に教科書編纂を働きかけること等を行っていくこととした。

#### 【教育環境整備】

・4月及び9月の2回、教養教育科目に配当されるTAを対象とした研修会を実施し、任務に関する資料集を配布した。研修会では、双方向型のプログラムにトピックスを追加するなど充実に取り組みつつ、研修カリキュラムの定型化に努めた。また、研修をより強化するための方策として、2月に研修会映像を活用した研修のオンライン化を試行し、研修未受講者に配信した。更に、研修会参加者には参加証明書を発行し、研修参加のインセンティブとした。  
・実効性の高い高大接続教育を行うため、各授業科目(初等数学、初等物理学、初等化学、初等生物学)の担当講師に高校退職教員を配置し、その実施状況を検証するとともに、実施状況の検証結果に基づいて平成27年度の実施案を作成した。  
・各研究科における複数指導教員制の整備状況を調査した。  
・平成25年度に実施された学部大学院縦断型連携科目の実態調査を参考に、「学部・大学院連携科目の設置に関する取り扱い」(平成22年学長裁定)の問題点及び現行の課題と今後の改善項目を取りまとめた。  
・平成25年度に集計・分析した学際領域横断型の特別講義に関する大学院生と教員の意見・要望・課題等を取りまとめ、大学院教育の検討課題として提案した。また、平成26年度に各研究科で開講されている大学院特別講義について全学の実施状況を調査した。更に、その開講状況の情報収集と分析に基づき、部局横断型の連携科目として他研究科の学生も履修することが推奨される科目の検討を行い、他分野の学生にも教育上有益と考えられる講義形態と大学院特別講義の全学的な運用方法を検討して、入門的な専門内容をもつ高次教養プログラムの導入、副専攻制の拡充、集中講義の単位化、大学HPの活用による他研究科への講義の公開等を進めた。  
・前期までにMPコースと共同で、平成25年の秋季より国際バカロレア入試で入学した学生の動向について点検を行い、教育環境の改善が望ましい点を洗い出した。特に、ガイダンス科目の受講が半年遅れる点を含めて、授業の並びが春季入学用になっている弊害が見られることを確認したため、改善策について検討を行った。

#### 【地域連携・リカレント教育】

・「大学コンソーシアム岡山」及び「科学Tryアングル岡山」における事業活動を通して、従来から実施している地域・社会連携、教育連携、地域教育機関等との連携に関する活動を継続、発展させた。  
・「岡山大学先端研究講座」として、7月に「エンジン燃焼の可視化と高効率化の方法」(受講者36名)と「胃癌や食道癌をウイルスで見て治す！」(受講者26名)、11月に「味覚の科学」(受講者39名)を開講した。

## 【総括記述欄】

平成26年度の組織目標として掲げられていた課題に関してほぼ達成できた。来年度に向けた課題としては、平成28年度実施の60分授業、クォーター制に対応した教養教育改革の促進、並びに、教養教育が担うべき学士力(教養DP要素)の育成を最適化したカリキュラムの構築、担当教員の適切な配置等について、学系部会を中心に検討を進めることである。また、学士課程教育構築のPDCAサイクルを回すと共に、大学院課程教育のあるべき姿について検討を行いたい。